

令和3年度 第1回 大阪府立狭山池博物館運営審議会

（令和2年度大阪府立狭山池博物館運営審議会での意見への対応）

令和3年12月16日

令和2年度大阪府立狭山池博物館運営審議会での意見への対応

【取組に関すること】

委員意見	意見の反映
<p>サービス向上委員会において、オンラインガイドツアーの実施という意見もあり、海外や日本国内でも狭山池から遠いところにいる方にも博物館の館内を見ていただき、実際に来ていただけるような手配ができれば良いのではないかと。</p>	<p><u>遠方から博物館を疑似体験できるストリートビューを公開。</u> <u>また、博物館ボランティアによるオンラインガイドツアーを現在検討中。</u></p>
<p>博物館におけるイベントの様子等をオンラインで発信した際にどの程度アクセスしていただけるか、コメントをいただけるか、今後はコロナ禍の有無は関係なく評価できることが大事ではないかと。</p>	<p><u>特別展や地域イベントを動画配信し、アクセス数の分析・評価を行うとともに、オンライン配信に向けた取組みを今後検討する。</u></p>
<p>「河内平野の水風景」のチラシにおいて狭山池や水辺に関わった120ほどのコミュニティが囲んだ図が紹介されているが、これらコミュニティが狭山池の応援団になるのではないかと。</p>	<p>狭山池に関係するコミュニティ団体とは、地域イベントに参加など、活動いただいております。引き続き連携していく。</p>
<p>先になるが、大阪万博に合わせてイベントを実施するのか。また、大阪府内だけではなくその他への広報の仕方などは考えているのか。</p>	<p>大阪万博の開催で外国人来訪者数の増加が見込めることから、<u>大阪万博に合わせての博物館イベント開催や広報活動について検討する。</u></p>

令和2年度大阪府立狭山池博物館運営審議会での意見への対応

【運営マネジメントに関すること】

委員意見	意見の反映
来館者数という量的な指標のほか、HPやSNSのアクセス数も活用するなど、コロナ禍においてどのように最終的な指標の設定を行っていくか慎重に検討する必要があるのではないか	中間答申以降における各種イベントの評価（来館者数や満足度）を参考に指標を設定し、HPやSNSのアクセス数も参考に運営マネジメントを実施する。なお、指標については、 <u>運営マネジメントの取り組み状況を踏まえ、定期的に見直しを検討する。</u>
博物館としてどの程度満足度を達成できたのかという自己評価も指標に加えることが必要ではないか。	PDCAによる運営マネジメントの中で、 <u>満足度を指標に三者協働運営委員会による自己評価も行う。</u>
地域魅力創造におけるイベントの満足度において、どの程度のコミュニティと連携することができたかという活動も指標に入れることで、より明確な目標ができるのではないか。	地域コミュニティとの連携数も <u>運営マネジメントの評価対象として検討する。</u>
指標についてはマネジメントに生かすということであると思うが、HP等に掲載するなど外部から見えるような形にする必要もあり、また一般の方以外からの視点も意識した指標が必要になるのではないか。	指標については、運営マネジメントの評価方法として今後、HP等に掲載するなど外部から見える形で公表していく。指標は、当面、来館者の視点による運用を行い、 <u>専門家等、一般の方以外からの視点による評価指標は、運営マネジメントの取り組みの状況から必要に応じて検討する。</u>
狭山池に関する歴史の知識を取得できたかどうかなど、博物館のコンセプトが来館者に伝わっているかどうか確認できるような工夫がされているアンケートであれば良い。	現在、イベントで実施している来館者アンケートは、満足度の設問の中でコンセプトが伝わっているかが確認できるよう工夫した。
基本的な個人属性（年齢、地域別など）のほかイベントの内容に応じた設問や自由記述を設け、質的な視点で整理し、今後どうしていくか分析を行う必要があるのではないか。	イベントのアンケート調査は、満足度の指標となる設問のほか、イベントに応じた設問や自由記入欄を設け、整理・分析の上、 <u>運営マネジメントによる評価に反映する。</u>
既存のデータを活用し、アクセス数だけでなく来館者の属性や個人的な属性に踏み込むことで、今後より来館者数が伸びていくのではないか。	来館者アンケートにより収集した来館者の属性や個人的な属性について、 <u>運営マネジメントにおいて分析し、効果的な運営につなげる。</u>